



# 【 発音が気になったら 】



## < 発音が身につく年齢 >

年齢	完成する発音
2歳代	パ行、バ行、マ行、母音、ヤユヨワヅ
3歳代	タ行、ダ行、ナ行、ガ行、チャ行
4歳代	カ行、ハ行
5歳代	サ行、ザ行、ラ行

参考文献：新生児・小児の発達障害診断マニュアル（医歯薬出版）



→年中さん頃になっても気になる発音がある場合には、言語訓練の中で獲得を促していく場合もありますので、一度小児科にご相談ください。

## < 音の発達に必要なこと >

### ①お口（舌や口唇）の運動の発達

音は舌や唇を動かすことで作り出されています。毎日の食事の中でよく噛んで食べることや、お口を使う場面（うがい・吹く遊びなど）を通してこの力が高まっていきます。

#### ◆おうちでできること◆



がらがらうがい



しゃぼんだま



よく噛んで食べる 等

### ②音（ことば）を聞き分ける能力の発達

正しく音を聞き分けられないと、自分が音を発するときにも誤った音になってしまいます。文字（ひらがな）が読めるようになってくると、音の違いに気付くきっかけが作られやすくなります。

#### ◆おうちでできること◆



しりとり



ことばさがし（例：「さ」のつくことば）等



# 【こころと身体を育てよう】

～暮らしの中でことばの土台づくりを～



ことばの成長の前には、規則正しい生活習慣やこころの安定といった、しっかりとした土台が必要です。暮らしや遊びの中で、運動や感覚、こころを育むことが、ことばの成長につながります。

## 睡眠 ぐっすり眠れていますか？

睡眠は翌日の活動に向けた、脳と身体の休息时间です。  
睡眠不足では、脳が元気に働かず、様々な刺激も届きにくくなります。  
規則正しく、早寝早起きのリズムをつくりましょう。  
まずは、起きる時間を一定にして朝のリズムをつくりましょう。



## 食事 だらだら食べしていませんか？

睡眠同様、食事時間もリズムをつくり、しっかり食べることで、身体や脳が働きやすくなります。  
また、いろいろな食べ物をバランス良く食べ、しっかりと舌や唇を使う事で、正しい発音にもつながります。  
テレビやスマホはお休みして、家族で楽しく食べましょう。



## 運動 日中、体を動かして遊んでいますか？

ハイハイや高這い、立つ、歩く、走る etc…様々な運動の中で筋肉が発達し、身体の動かし方を学習します。また、姿勢が変わることで視点が変わり、世界が広がります。  
発達の段階に応じて、いろいろな遊びを楽しみましょう。





### こころ 親子で「楽しいね」「嬉しいね」を共有しましょう

子どもの興味に大人が合わせ、共感したり、子どもの発見と一緒に驚いたりすることで、子どもに「この人に伝えたい」という気持ちが育ちます。まだことばでうまく言えなくても、指差しや表情、視線から汲み取り、その気持ちを共有しましょう。

### 手の操作 いろいろな物を使って遊んでみましょう

握る、摘む、引っばる等いろいろな物を使ったり遊んだりしながら、手の使い方、物の使い方を学習します。また、手を使う作業は、対象となっている物に注意を向ける力が育ちます。自分で扱える物が増えると、食事や着替え、排泄といった身辺自立にもつながります。いろいろな物に触れて、使う機会をつくりましょう。



### 経験 五感をフルに使いましょう

見る、聴く、触れる、食べる、嗅ぐといった感覚を使い、実際に体験しましょう。「おいしい!」「きれい!」「ビックリ!」など自分で体験した印象的、感動的なことは、子どものこころに鮮明に残ります。その時の気持ちを子どもと共有しましょう。



### 聴こえ 耳を澄まして聴いてみましょう

一日中テレビをつけておくのはやめて、静かな時間をつくりましょう。その中で、声やいろいろな音が耳に届きやすくなります。生活や遊びの中で、様々な音に注目し、注意して聴く力をつけましょう。

- ※ 後ろからの声かけや大きな音に振り返りますか？
  - テレビの音が大き過ぎたり、テレビに近すぎたりしませんか？
- 聴こえが気になる場合は、耳鼻科に相談しましょう。**



参考文献：「ことばをはぐくむ」 中川信子著 ブドウ社

「生まれたときからことばを育てる暮らし方」 中川信子著 保健同人社



# 【 ことばの つかえが 気になったら… 】



～たとえば こんな様子が気になったことはありませんか？～



## < かかわりかたについて >

・ ことばをさえぎらずに、最後まで聞きましょう

→話の途中で質問したり、言いたいことのさきどりをせず、  
お子さんのことばを繰り返すことやうなずきで伝えましょう

・ 話し方を指摘したり、言い直しをさせるのはやめましょう

→「もう一度言って」「ゆっくり!」「落ち着いて」など  
話し方のアドバイスはやめましょう

・ 邪魔されない発話場面を確保する

→きょうだいで競うように話す→順番に話をきいてあげる など  
家族での会話もゆったりとしたペースで話すことを心がけましょう



半年以上つづく場合には  
再度小児科にご相談ください

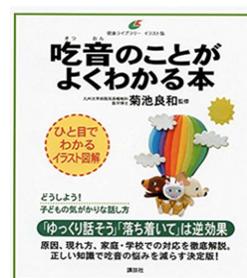


## 吃音に関する本などの紹介

吃音については周りの大人が  
吃音の正しい知識をもってあげることが大切です

### <図書>

- ・『エビデンスに基づいた吃音支援入門』：学苑社
- ・『吃音のリスクマネジメント -備えあれば憂いなし-』：学苑社
- ・『子どもの吃音 ママ応援BOOK』：学苑社
- ・『吃音のことがよくわかる本』：講談社



### <ホームページ>

- ・吃音ポータルサイト  
<http://www.kitsuon-portal.jp/>

### 参考資料

- ・「おこさんがどもっていると感じたら」（北里大学「ことばの相談窓口」監修）
- ・「うちの子はどもっているの？」（NPO法人全国言友会連絡協議会 発行）





# 【ことばを はぐくむ 関わり】



## ●ことばは水鉄砲

「ことば」ということばには、三つの意味が含まれています。



- ① 言えることば
- ② わかることば
- ③ 伝えたい気持ち 　　です。

ことばを水鉄砲に例えてみると、水鉄砲の口から水が出るためにはタンクに水が入っている（＝分かっている言葉がある）事が必要ですが、大切なのは引き金を引く（＝人に伝えようとする）パワーです。

## ●より効果的なことばがけ

### ◆人との関わりを楽しむために

<こんな お子さんに>

- ・ひとり遊びが多い
- ・まだことばがでていない
- ・視線が合いにくい

#### こどもの行動をそのまま真似る



(ねらい) 大人が反応してくれる存在であることの気づきを促す。

(例) こどもが手をあげたら、大人も手をあげる。

#### こどもの音声やことばをそのまま真似る



(ねらい) 声を出すことで周りの人が反応する事に気付いてもらう。こどもへの共感や理解を知らせる。

(例) こどもが声をあげたら、大人も声をあげる。

## ◆正しいことばにつなげるために

<こんな お子さんに>

- ・ さかなを「たかな」、つくえを「くつえ」と言ってしまう
- ・ りんごを「ご」と言ってしまう
- ・ どうぶつ全般を「いぬ」という など

さりげなく正しいことばを聞かせる



(ねらい) 正しいことばへの気付きを促す。

(例) 子ども「タァチュ (カラス) !」  
大人 「ほんとだ! カラス!」

※ 「違う、〇〇だよ」と強調しないように気を付けましょう

## ◆ことばのかず・やりとりをふやしていくために

<こんな お子さんに>

- ・ 会話になりにくい
- ・ 知っていることばの数が少ないように感じる
- ・ ことばの使い方が気になる (きらい→すきくない など)

こどもの行動や気持ちをことばで表す



(ねらい) こどもの行動や気持ちをかわりにことばに表し、理解につなげる。

(例) 自転車が揺れた時に「ガタンしたね」と言葉で表す

こどもが発したことばに新しいことばをつけだし、返す



(ねらい) 新しいことばの意味理解につなげる。

(例) 子ども「ワンワン!」  
大人 「白いワンワンだね (色+名詞)」

大人自身の行動や気持ちをことばにする



(ねらい) 大人自身の行動や気持ちをことばに表し、理解につなげる。

(例) お湯を触った感覚を言葉にする

こどもに新しい言葉のモデルを示す



(ねらい) ことばを会話に使う方法を覚えていく。

(例) 大人「じいじのお家はいこうね。こんにちはしようね。(モデル提示)」  
子ども「じいじ、ちわ」